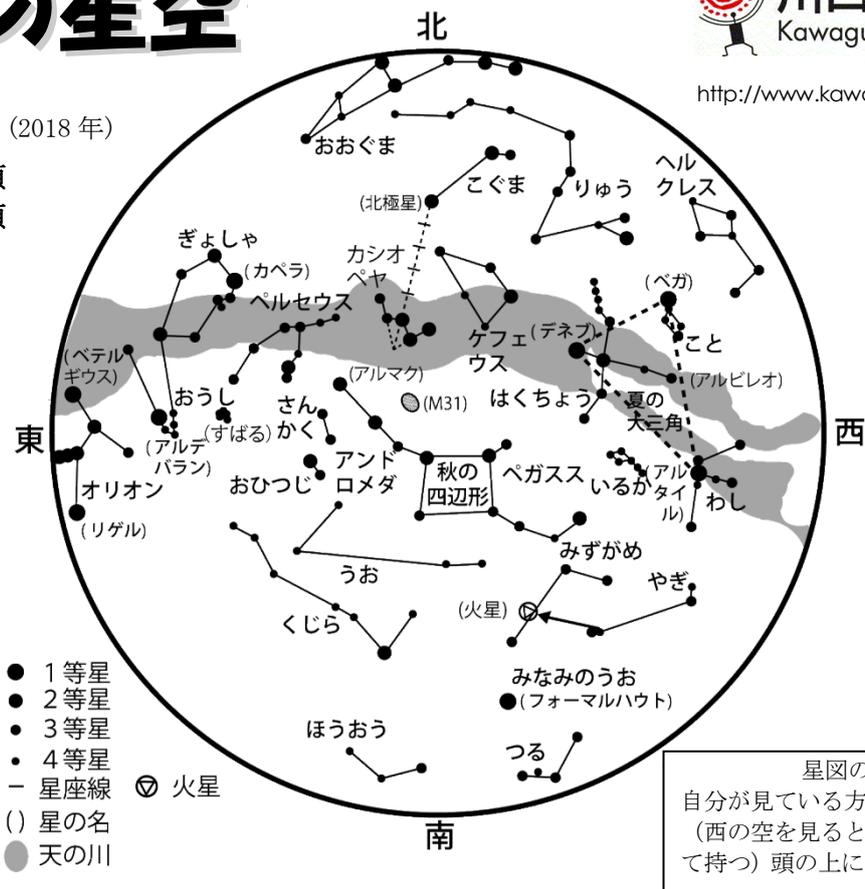


今月の星空

11月 (2018年)

上旬 21 時頃

下旬 20 時頃



月 齢 ①下弦 1 日、●新月 8 日、①上弦 15 日、○満月 23 日、①下弦 30 日

惑星情報 火星 夜のはじめ頃 南→南西 (やぎ座→みずがめ座 -1 等級→ 0 等級)

☆アンドロメダ座～古代エチオピア王家物語の主演～

秋の四辺形とともに、アンドロメダ座が空高くに昇ってきました。この星座は、ギリシャ神話、古代エチオピア王家の物語に登場するアンドロメダ姫の姿とされています。秋の夜空にはそれ以外にも、物語に登場する人物などが勢ぞろいしています。アンドロメダ姫の父・ケフェウス王や母・カシオペヤ王妃、アンドロメダ姫を襲う化けくじら、天馬ペガサスに乗って現れるペルセウス王子、といった具合です。これらの星座には、それぞれ街中でも見える 2 等星があります。物語については星座の解説書等でも調べることができますので、物語とともに秋の星座探しをお楽しみください。

☆アンドロメダ座の二重星「アルマク」

二つの恒星が非常に近づいて見える天体を二重星と言います。アンドロメダの足元に輝くアルマクも肉眼では一つの星に見えますが、望遠鏡で見ると黄色の 2 等星と青白い 5 等星に分かれます。はくちょう座のアルビレオ同様、色の対比の美しい二重星とされています。

☆肉眼で見える最遠の天体 アンドロメダ銀河 (M31)

アンドロメダ座には、よく知られたアンドロメダ銀河 (M31) があります。見かけの大きさは満月約 6 個分ほどあるため、望遠鏡では全景を捉えることは難しく、楕円形をした明るい中心部を見ることができます。空の暗い所では、肉眼でもぼんやりとその姿を見ることができます。地球からの距離はおよそ 250 万光年であり、肉眼で見える最遠の天体とされています。



©NASA
アンドロメダ銀河

ワンポイント～アンドロメダ「星雲」？それとも「銀河」？～

かつては、この天体の距離を測ることができず、銀河系内の「星雲」と考えられていました。しかし、1923 年にエドウィン・ハッブルがアンドロメダ銀河の中にセフィイド変光星を発見したことから、その距離が約 90 万光年 (現在では約 250 万光年) と求まりました。これにより、この天体が私たちの住む銀河系の広がりよりも遠い場所に存在する、別の「銀河」であることがわかりました。